



Report

モザンビーク活動報告



守られるべき子どもの権利

ー児童婚をなくすための学校の取り組みー

モザンビークでは、半数近くの子どもたちが小学校を卒業できておらず、貧しい農村部ではその数はさらに多くなります。子どもたちを中退に追い込む大きな要因の一つが、児童婚です。

ソファアラ州シバババ地区で暮らすルシア・マヌエル・フィリペさん(15歳)は、父親が決めた結婚を理由に、マササンへ小学校をやめなければならなくなりました。しかし、ルシアさんの状況を知った担任の先生は直ちに校長に報告。学校運営委員会のメンバーや地域のリーダーが教育の重要性について父親を説得した結果、ルシアさんは結婚をせずに学校で勉強を続けられることになりました。「学校運営委員会は、子ども

たちの未来を脅かす慣習は必要ないと考えます」と話すのは、トマス・フェルナンド・ムガドゥイ会長です。

児童婚をはじめとする子どもへの暴力に対する効果的な対応策として、モザンビーク政府は2020年、学校にVAC※照会メカニズムという仕組みを取り入れました。暴力を経験した子どもや結婚している子どもが、警察や保健所、学校からの必要なサービスを受けられる

よう、あるいはそのような状況にある子どもを知っている子どもが通報できるようにするための仕組みです。

※Violence Against Childrenの略で、「子どもへの暴力」の意

ユニセフはソファアラ州教育局とともに、児童婚を含む暴力を防ぐことができるよう、学校における同メカニズムの適切な運用について、教育関係者と学校運営委員会のメンバーに研修を実施しています。また、児童が参加する学校クラブでは、自分の身を守ると同時に、学校や地域で友だちを手助けできるための知識を伝えています。



フィリペ・パウロ校長

「子どもたちが長く欠席している理由が結婚だと判明した場合、学校側は学校運営委員会に報告し、地域のリーダーとともに解決に向けて取り組みます。それでも、子どもを結婚させるために親同士が協力し合うので、結婚を止めることは非常に難しいです」とマササンへ小学校のフィリペ・パウロ校長は話します。ムガドゥイ会長とパウロ校長は、児童婚を強いられる子どもがいなくなる未来を実現するため、奮闘しています。

写真:すべて©Abilio Cossa, Maria Dulce and Masatake Harada



トマス・フェルナンド・ムガドゥイ会長

「スクール・フォー・アフリカ」活動報告会を開催しました!

2023年12月7日に、ユニセフ・モザンビーク事務所の大平健二教育マネージャーをユニセフハウスに迎え、活動報告会を開催。モザンビークの子どもの現状や、皆さまからのご寄付によって実現した成果についてお伝えしました。是非、報告会の様子を動画をご覧ください!

www.unicef.or.jp/event/report/20231207/



©日本ユニセフ協会

発行日: 2024年4月1日

発行者: 公益財団法人 日本ユニセフ協会 (ユニセフ日本委員会)

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス

母と子に

☎ 0120-88-1052 (通話料無料) 【受付時間】 平日 9:00~17:00

スクール・フォー・アフリカ 特設サイト www.unicef.or.jp/sfa/report/



unicef

